

鶴の恩返し

つる

おんがえ

LEVEL

4



つる おんがえ
鶴の恩返し



むかしむかし あるところに、

びんぼう

とても貧乏な おじいさんとおばあさんが、

住んでいました。

ふたり

二人は、食べる物も 着る物も

た もの

き もの

あまりないけれど、心が優しい人でした。

こころ やさ

ひと



ある日、おじいさんは 沼の近くで、
罾にかかっている鶴を見つけてました。
鶴は、けがをしていました。

わな

ひ

つる み

ぬま ちか



「おお、かわいそうに。

もう、だいじょうぶだよ。」

おじいさんは、鶴の罾をはずして、
助けてあげました。

たす

つる わな

するとその夜、よる

おじいさんとおばあさんの家いえに、旅たびの途とちゆう中で、
道みちに迷まよった若い娘わかむすめが来きました。



優しいやさ おじいさんとおばあさんは、
困こまっている娘むすめを家いえに入れ、
あたたかい お粥かゆをあげました。



娘むすめはひとりぼっちだといいうので、
一緒いっしょに暮くらすことになりました。



つぎの日ひから、娘むすめは部屋へやにはいつて、

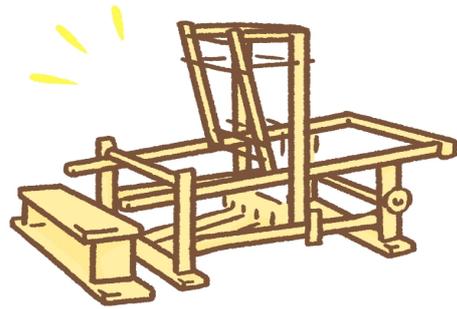
布ぬのを作つくりました。

娘むすめが布ぬのを作つくる音おとが

聞きこえます。

カッターン、カッターン、

シュー、シュー。



娘むすめは一晩中ひとばんじゆうね寝ねないで
働はたらきました。

そして、誰だれも見たことみがない
美うつくしい布ぬのができました。





とても美しい布だったので、

おじいさんはこの布を
町に行って、高い値段で

売ることができました。

そして、そのお金で

お米や味噌が
たくさん買えました。



その晩も 次の晩も、娘は布を作って、

その布を町に売りにいきました。

おじいさんとおばあさんは、娘と一緒に

暮らすことができて、幸せでした。

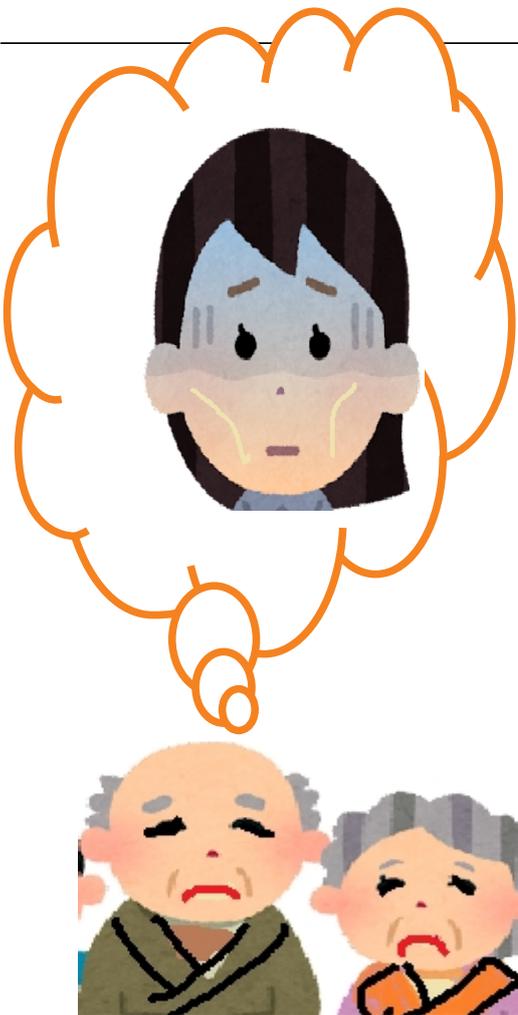
娘とおじいさん、おばあさんには、
大切な約束が一つ ありました。

「私が布を作っているときは、ぜったいに
見ないでください。おねがいします。」

ぜったいにですよ。」

しかし、日に日に娘が痩せていくので、

おじいさんとおばあさんは、心配しました。



そして、とうとう
布を作っている娘を
見^みてしまいました。



すると、そこには娘はいませんでした。

そのかわり、一羽
の鶴が自分の羽を
使って、布を作っ
ていたのです。



あのきれいな布は、
鶴の羽でできていたのです。

娘は、二人に気がつく
かな
悲しそうに言いました。



「見^みてしまったんですね、」

私は あのと
きのとき、

命を助けていただいた鶴です。

恩返しに参りました。

でも、もう一緒に暮らすことはできません。

私の本当の姿を見られてしまったから。

ぜつたいに見^みないでくださいと、

言^いっていたのに、」

そう言^いって、寂^{さび}しそうに空^{そら}に飛^とんで
行^いきました。

「もう、悪^{わる}い罫^{わな}にかか^かるんじやないよ。」

「元^{げん}気に暮^くらすんだよ。」

二人^{ふたり}は鶴^{つる}に声^{こえ}をかけ、
手^てを振^ふりました。

鶴^{つる}もその声^{こえ}に答^{こた}えるように、

二人^{ふたり}の上^{うえ}を飛^とんで、見^みえなくなりました。



<使用イラスト>

機織り機:イラスト AC

<https://www.ac-illustr.com/main/detail.php?id=2005978&word=機織り機>

鶴(4ページ):イラストセンター(改変)

https://illustrcenter.com/2022/01/15/rdesign_13870/

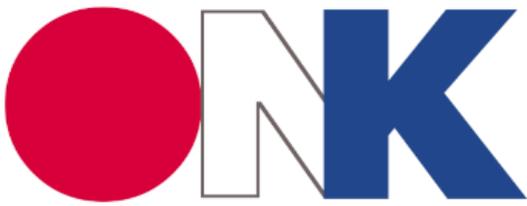
その他:いらすとや(一部改変)

<https://www.irasutoya.com/>

タイトル	にほんご ^{たどく} 多読の本 ^{ほん} レベル4 ^{れべる} 『鶴 ^{つる} の恩返し ^{おんがえ} 』
原作・底本	にほんみんわ 日本民話
文	かばしま ゆうこ 樺島 夕子
発行	おらんだにほんごきょうしかい オランダ日本語教師会 https://www.orandanihongokyoshikai.nl/
制作日	2022年 ^{ねん} 3月 ^{がつ} 31日 ^{にち}

©オランダ日本語教師会 2022

無断転載・引用は禁止します。



オランダ日本語教師会

Dutch Association of Japanese Language Teachers